

希薄化した親子時間をテクノロジーでより豊かに

執筆者 KDDI 総合研究所 atelier デザイン部門 atelier 企画室 畑中 梨沙

▼記事のポイント

<サマリー>

共働き世帯の増加を背景に、親子で過ごす時間を増やしたいと考える親がいる一方で、仕事をしながら親子で過ごす時間を増やすことはなかなか難しいのが現状である。親子で過ごす時間は実質的に増やすことは難しいが、より良いものにできないだろうか。

共働き世帯の数は、1992年に専業主婦世帯を上回り、今では1980年の約2倍に増加している。アンケート調査でも、親子の時間や外遊びの時間が足りていないと感じ、また子どもの興味を広げようとする体験をもっとさせてあげたいと考えている親が多くいると報告されている。

本稿では、これまで気づかずに過ごしてきた子どもの興味や関心に気づくことで、今以上に子どもと一緒に過ごす時間を充実させられないかを考察する。具体的には、ICTを活用して子どもの興味や関心により気づけるようなサービス事例を紹介し、そうしたサービスが未就学児の子どもを持つ親の期待に応えられそうかをインタビュー調査の結果を踏まえて確認する。最後に、こうしたサービスを利用して子どもの新たな関心事をひとつでも見つけられれば、より充実した親子時間を増やせる可能性を示唆し、まとめとする。

<主な登場人物>

子ども 親 保育士

<キーワード>

興味・関心の測定 表情分析 行動分析 デジタル絵本

<地域>

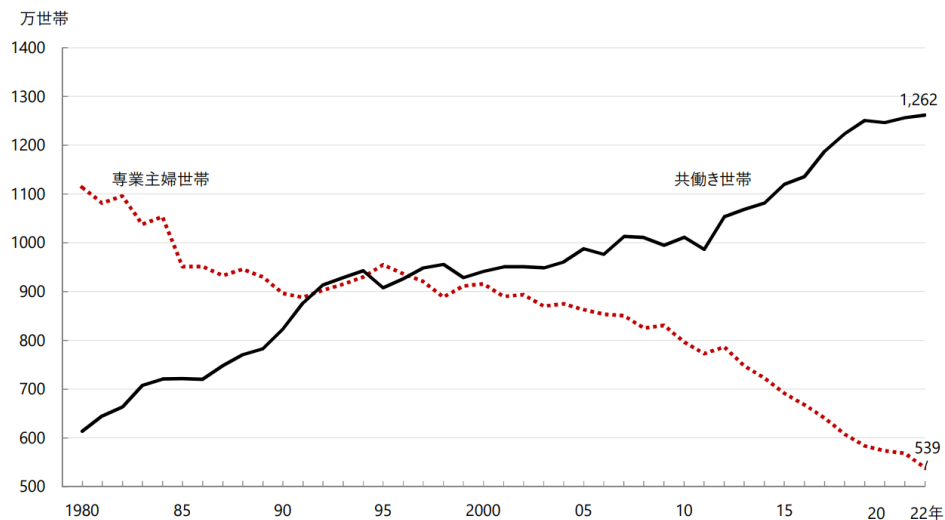
日本

1 子育てを取り巻く環境の変化

先日、8歳になるわが子が縄跳びを飛べるようになった瞬間に立ち会うことができ、ふと思ったことがある。今回、偶然にも子どもの「初めて何かを達成する瞬間」に立ち会え喜びを分かち合うことができたが、親子の時間が減っている中、このような瞬間を見逃してしまっていることが結構あるのかもしれない。

実際、2010年以降共働き世帯数は年々増加している。1992年に専業主婦世帯と共働き世帯の数が逆転して以降、1980年に614万世帯であった共働き世帯は2022年には1,262万世帯となり、倍以上の648万世帯も増えている【図表1】。特に2010年以降からコロナ以前の伸びは年間26万世帯（2010年～2019年平均）とリーマンショック前の年間11万世帯（2000年～2007年平均）に比べ増えている¹。

【図表1】 専業主婦世帯と共働き世帯数の推移（1980年～2022年）



資料出所 総務省統計局「労働力調査特別調査」、総務省統計局「労働力調査（詳細集計）」

注1 「専業主婦世帯」は、夫が非農林業雇用者で妻が非就業者（非労働力人口及び完全失業者）の世帯。

2018年以降は夫が非農林業雇用者で妻が非就業者（非労働力人口及び失業者）の世帯。

注2 「共働き世帯」は、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。

注3 2011年は岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

注4 2018年～2021年は2020年国勢調査基準のベンチマーク人口に基づく時系列接続用数値。

出典：独立行政法人 労働政策研究・研修機構²

¹ 下記を参考に労働政策研究・研修機構のデータを集計。

みずほ総合研究所株式会社（現みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社）「みずほインサイト：共働き世帯の増加と消費への影響」（2017年3月24日）

<https://www.mizuho-rt.co.jp/publication/mhri/research/pdf/insight/jp170324.pdf?ad=rs>

² 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「専業主婦世帯と共働き世帯1980年～2022年」

<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/timeseries/html/g0212.html>

親子で過ごす時間について、子どもを持つ親はどのように考えているのだろうか。株式会社イオンファンタジーのエデュテイメント研究所が2020年12月に全国の3,972人の保護者（子どもまたは孫のいる10代～80代）を対象に行った「子どもと家族」に関する調査¹では、「現在の子どもとの過ごし方について自己採点すると100点満点で何点になるか」を聞いたところ、母親は61.0点、父親は63.6点と答え、筆者の主観ではあまり高い点数をつけられていないと感じる。また、点数を上げるためにしたいことは、「屋外での遊びの時間を増やす」が上位で、次いで「子どもの興味が広がるような体験をつくる」「親子一緒に楽しむ時間を増やす」となった【図表2】。裏返すと、現状では親子の時間や外遊びの時間が足りていないと感じ、また子どもの興味を広げるような体験をもっとさせてあげたいと考えている親が多くいることを示している。

【図表2】子どもとの過ごし方についての自己採点と点数を上げるためにしたいこと

現在のお子様との時間の過ごし方について、自己採点すると何点くらいですか。（0～100点で自由記入）

	全体 (n=3,972)	父親 (n=535)	母親 (n=3,117)	祖父母 (n=259)
平均点	61.7点	63.6点	61.0点	66.4点

自己採点の点数を上げるためにしたいと思うことはなんですか。（複数回答）/TOP5まで

（単位：％）

	全体 (n=3,972)		0点～40点台 (n=594)		50点台～70点台 (n=2,257)		80点台～100点 (n=1,121)	
1	屋外での遊びの時間を増やす	53.9	屋外での遊びの時間を増やす	58.2	屋外での遊びの時間を増やす	56.7	屋外での遊びの時間を増やす	45.8
2	子どもの興味が広がるような体験をつくる	48.9	親子一緒に楽しむ時間を増やす	54.9	子どもの興味が広がるような体験をつくる	52.9	子どもの興味が広がるような体験をつくる	39.7
3	親子一緒に楽しむ時間を増やす	44.1	子どもの興味が広がるような体験をつくる	51.3	親子一緒に楽しむ時間を増やす	48.1	自然と触れ合える時間を増やす	33.1
4	自然と触れ合える時間を増やす	38.1	自然と触れ合える時間を増やす	42.4	自然と触れ合える時間を増やす	39.5	親子一緒に楽しむ時間を増やす	30.3
5	屋内での遊びの時間を増やす	26.4	屋内での遊びの時間を増やす	31.8	屋内での遊びの時間を増やす	26.1	屋内での遊びの時間を増やす	24.1

出典：株式会社イオンファンタジー「エデュテイメント研究所」

仕事をする親にとっては、親子で過ごす時間を増やしたいと考えても、その時間を増やすことはなかなか難しい。筆者自身、平日はフルタイムで働きながら、朝は子どもを学校に遅刻させないようにバタバタと送りだすのが精一杯で、帰宅してから夕飯の支度や後片付けをしたり、お風呂に入れたり、落ち着いて子どもと過ごす

¹ 株式会社イオンファンタジー ニュースリリース「全国の保護者3,972名に調査を実施。第二回目のテーマは「子どもと過ごす時間・場所に対する意識と実態」（2021年6月18日）https://www.fantasy.co.jp/company/wp-content/uploads/2021/06/FINAL_%E3%80%90%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%A8%E5%AE%B6%E6%97%8F%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%80%91210618.pdf

すことができるのは就寝前の2時間程度である。実質的な時間を増やすことは難しいと感じているため、親子で過ごす時間をより良いものにできればと思うのだが、各家庭ではどのような工夫をしているのだろうか。毎日、学校であったこと話したり、今習っている勉強のことを聞いたりはそののだが、いつも同じような内容になり話が続き、つい、テレビを見たり、ゲームをしたりと流されてしまいがちだ。毎日飽きずに話したり、一緒に楽しめたりするよう、いろいろな話題を見つけられないものだろうか。

親子で過ごす時間をより良くする方法はいくつかあると考えられるが、本稿では子どもの興味や関心をこれまで以上に把握することで、子どもと一緒に過ごす時間を充実したものにできないかを考察する。具体的には、子どもの興味や関心を把握するサービス事例を紹介し、それらのサービスが親の期待に応えるものなのかを確認する。なお確認にあたっては、当社で実施した幼児教育に関するインタビュー調査の中で、親が子どもの興味や関心をどのように把握しているのか、また興味や関心を把握するサービスに対する理解や期待がどれほどあるかについて聞いており、この部分を参照することとする。

2 気づかなかった子どもの興味・関心を教えてくれるサービス事例

技術の革新により、あらゆるデータが可視化できるようになってきている。子どもの興味や関心については、これまでは可視化が難しかったが、ここ数年で可視化するデバイスやサービスが登場している。

■かざせば絵や文字を認識して音で教えてくれる「AI虫めがね」

大日本印刷株式会社 (DNP) は、虫めがね型のデバイスを絵本や写真にかざすと、絵や文字を認識して音で内容を説明してくれる「DNPスマートAIデバイス 魔法の虫めがね」を開発した。それをクラウドファンディングのMakuakeで12,800円 (税込送料込・クラウドサービス利用料3か月無料) で販売したところ、目標金額の50万円を3時間43分で突破した¹。最終的な資金調達額は360万円までに達するほど注目を集めた²。

「魔法の虫めがね」には3つのモードがある。①かざした「文字」を読んでもくれる『朗読モード』、②かざした「絵」や「写真」をAIが認識して名称を教えてくれる『発見モード』、③かざした「絵」や「写真」をAIが認識して何か教えてくれる『説明モード』である【図表3】。

子どもがのぞいたものの履歴は、連動するスマホアプリを経由してクラウドに蓄

¹ ITメディアビジネスオンライン「魔法の虫めがね」で何が見えてきたのか “ヒヨコ”が出てきて消えた理由 (2022年2月12日)
<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2202/12/news026.html>

² Makuake 魔法の虫めがねプロジェクトページ
<https://www.makuake.com/project/dnp/>

積まれ、AIが分析し、週単位で子どもの興味・関心の推移を見える化する。親はログ（記録）を見ることで「子どもが今、何に興味を持っているのか」を知ることができるようになっていく【図表3右下】。親は子どもの興味を知ることで子どもへの理解を深め、子どもとのコミュニケーションの量と質を高められるとのことである。

【図表3】魔法の虫めがね 3つのモードとスマホのログ画面(右下)



出典：Makuake（3つのモード）、YouTube¹（ログ画面）

残念ながら、2023年3月31日をもって、このサービスは提供を停止しているが、購入者からは「子どもの好奇心を育てるのに良いと思い応援」や「共働きで子どもとじっくり時間を作るのが難しい中で、子どもが何に興味を寄せているのかわかる仕組みにとっても期待を寄せています」、発達障害や知的障害のある子どもと使いたいといった声が寄せられていた。

■子どもの成長を促す3つの項目を可視化する『私の可能性 発見！』診断

社会人向けにコンピテンシー²などを診断するツールや子どもの資質や能力、教育効果を定量化するツールを提供しているInstitution for a Global Society 株式会社（IGS）は、子どもの成長を促進する3つの項目「興味・関心」、「思考力」、「自己肯定感・自己効力感³」を測定する『私の可能性 発見！』診断を2023年2月にリリースした。

¹ YouTube DNPofficialチャンネル子どもの興味関心を育むAIデバイス『魔法の虫めがね』 <https://www.youtube.com/watch?v=Rno6IRCVrj4>

² コンピテンシーとは、優れた成果を創出する個人の能力・行動特性のこと。（出典：野村総合研究所 用語集 <https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/lst/ka/comptency>）

³ 自己効力感とは、目標を達成するための能力を自らが持っていることと認識すること。（出典：グロービス経営大学院 自己効力感とは？自己肯定感との違いや高めていく方法 <https://mba.globis.ac.jp/careernote/1302.html>）

子どもが日々の生活をテーマにした10の質問に答えるだけで、子どもが現在興味や関心がある分野と思考力が可視化され【図表4】、一人ひとりに合った学びのアドバイスや家庭での子どもへの声かけ方法がわかるという。また、オプションで指の動きから自己肯定感や自己効力感のチェックもできるという。

【図表4】診断レポートイメージ



出典：IGS webサイト¹

■“書く⇔褒める”の好循環で子どものやる気を引き出す「しゅくだいやる気ペン」

コクヨ株式会社は、いつもの鉛筆に取り付け、日々の努力を見える化するIoT文具「しゅくだいやる気ペン」【図表5】を発売。家庭学習の習慣化をサポートしている。

鉛筆に取りつけるグリップのような本体には加速度センサーが内蔵され、子どもが宿題を始めると、文字や数字を書く動きを感知する。動いた量は「やる気パワー」として蓄積され、その量に応じて内蔵のLEDの光る色が10段階で変化して、やる気が可視化される。

【図表5】しゅくだいやる気ペン



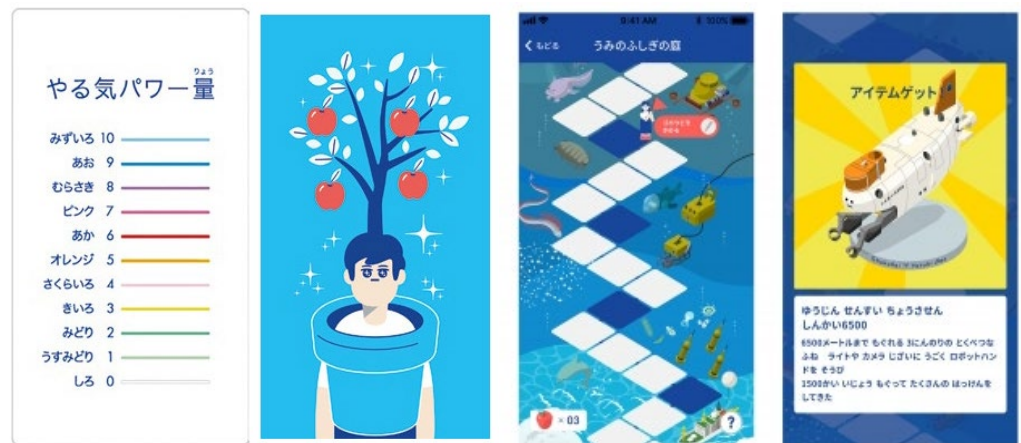
出典：コクヨ webサイト²

¹ IGS webサイト https://event.grow-360.com/watashi_kanousei

² コクヨしゅくだいやる気ペン webサイト <https://www.kokuyo-st.co.jp/stationery/yarukipen/>

子どもはやる気ペンを握って書いたやる気パワーでスゴロク形式の世界を冒険し、様々な不思議に出会う。その世界では、動物・恐竜・海・宇宙など各ステージのテーマに因んだデジタル図鑑カードを収集でき、探検記として繰り返し眺めたり、お気に入りを入りを並べ替えたりしながら、自分の興味を発見し、知識を広げていく【図表6】。「子どもがほんとうに好きなこと」が可視化され、親は子どもの個性の理解に役立つという。

【図表6】スゴロク形式の画面ではやる気の実の数だけマスを進みながら、さまざまなアイテムを獲得できる



出典：コクヨ webサイト、PR TIMES¹

親が見る管理画面では、親がその日の子どもの頑張りをみてカレンダーに「花マル」をつけられたり、鉛筆を動かした時間が棒グラフで分かったりする。週に1回、親に向けて、子どもの褒め方のアドバイスも届く【図表7】。

【図表7】親の管理画面には褒め方のアドバイスが届く



出典：コクヨ webサイト

¹ PR TIMES 「「しゅくだいやる気ペン」新コンテンツの配信開始」
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000076.000048998.html>

いずれのサービスも子どもの理解を促し、子どもへの声かけや子どもとのコミュニケーションをより良いものにするためのサポートをするサービスである。

3 親の視点と応用への理解

次に、2章で紹介したサービスが子どもと過ごす時間を充実させたものにするかをインタビュー調査により考察する。考察に用いたインタビュー調査は幼児教育に関するものであり、紹介したサービスそのものについて確認する内容ではないものの、有用な発言が多数得られていたため、本調査の発言録を引用し考察することとした。

調査概要と対象者は【図表8】【図表9】の通り。

【図表8】 幼児教育に関する調査の概要

項目	内容
調査手法	インタビュー（オンライン）
調査地域	全国
実施時期	2023年3月11日～3月14日
対象条件	① 電子絵本サービスや子ども向け動画を積極的に活用している幼児を育てている親 ② 幼児教育について積極的に考えると同時に、子どもが興味を持っているものを習わせたいと考えている親 ③ IoTガジェットに興味が高く日頃より利用している、幼児期の子どもをもつ親 ④ 幼児教室に通わせている、または幼児期より子どもを幼児教室に通わせている親
対象者人数	5名
時間	1.5時間/人

【図表9】 対象者一覧

	性別	年代	都道府県	家族構成
Aさん	女性	30代	愛知県	配偶者と長男（6歳）、次男（11カ月）の4人家族
Bさん	女性	30代	東京都	配偶者と長男（1歳11カ月）の3人家族
Cさん	男性	40代	東京都	配偶者と長女（9歳）、長男（3歳）、次女（0歳）の5人家族
Dさん	女性	30代	東京都	配偶者と長女（3歳）の3人家族
Eさん	女性	30代	長野県	配偶者と長男（4歳）の3人家族

3-1 親は子どもの興味を把握することを難しいと感じる

4歳の子どもを持つ30代女性のEさんは、子どもの興味があることを知るのが難しいと語る。「子どもと接している中で、ある程度、本人から好き嫌いは聞くことはできているが、保育園の先生からのお便りで初めて知ることも多い。」という。また、6歳児と11カ月の子どもを持つ30代女性のAさんは「子どもが恥ずかしがってやりたいことを言えず、もじもじしていて、興味関心を把握するのが難しかった。」という。子どもが自分のやりたいことを言いだしやすい環境を作らないといけないと感じ、母親である自分から思うことを伝えることで言い出しやすい環境を作っていたと語る。1歳11カ月の子どもを持つBさんは「子どもが何に興味があるかは、まだ小さいので今はわからない。」という。「今のところ、興味を示す/示さないがはっきりしているので関心を把握できているが、現在していることが将来にどう繋がるかわからない。」と語ってくれた。

親と一緒に過ごす中で、ある程度、子どもの興味のあることを感じとっているが、それが全てではないと考えており、また、まだ言葉で自分の思いをうまく伝えられない小さい子どもの場合、尚更、興味や関心を把握することは難しいと感じている。

3-2 子どもの教育についての理想

子どもの教育についての理想を聞いたところ、Aさんは子どもに対して「興味のあることはやらせてあげたいし、今はそうでなくてもそのうち興味が出てくるかもしれないこともやらせてあげたい。いろんな体験をさせてあげたい。」と語る。Eさんも「これからの時期だと子どもたちだけで行くようなキャンプにも行かせてあげたい。あとは元々私も好きなのだが、ステージや美術館も見せに連れて行ってあげたい。」と、様々な体験や経験を子どもにさせ、興味の幅を広げてあげたいと考えているようだ。

Bさんは「本人が興味のあることを、楽しみながら、普段の生活の中でストレスなく学べるようなやり方がいいと思う。」と語ってくれた。また、3歳の子どもを持つ30代のDさんは「好きなものは好奇心を持ってやらせたい。」とのことである。その子どもに合ったやり方で、楽しみながら学ばせたいと考えている。

3人のお子さんの父親である40代のCさんは、「長女（9歳）はいかに自己肯定感を高めてあげるかが大事だと思っている。最初は褒めていたが、最近は褒めるよりも共感することかなと感じている。」という。子どもに寄り添った声かけをしたいと感じている。

3-3 興味・関心の測定や把握についての理解と期待

最後に、2章で挙げたような興味・関心を測定し子どもの興味・関心を把握するサービスについてどう感じるかを聞いた。

対象者には「デジタル絵本を読んでいる時の子どもの表情から、子どもが興味を

持っている分野（音楽やサッカーなど）がわかるようになる」という仮のサービスがあった時に、どのように感じるかを聞いたところ、Eさんより「興味を持っている分野は知りたい。興味を持っているものをやらせてあげたいので、習い事を絞る時の参考にしたい。」という意見が聞かれた。Aさんは「表情から興味を持っているのがわかるようになるのは面白い。興味を持っていることがわかるなら、接し方も変わる。」と話す。デジタル絵本から子どもの興味がわかるので良いというコメントがある一方、「子どもが一人で絵本を見ている時に、そんなに表情が変わるのかわからない。」(Bさん) や「絵本はストーリー自体に興味を持つと思うが、スポーツはやらせてみないとわからない。」(Dさん) といった、絵本を読んでいる表情だけで興味や関心が汲み取れるのか疑問の声も聞かれた。また、Cさんは「未知の領域を知ること興味は変わるので、それを知ったからどうかかなと思った。」といい、現在の興味は成長と共に変わるので、子どもの表情から関心分野がわかることにあまり意味がないと考えているようだ。

また、「幼稚園・保育園などにある見守りカメラに録画されている映像から、幼児の日頃の行動パターンを分析して、子どもが興味を持っていることや性格などがわかるようになる。」といったことについて、どのように感じるかも聞いた。「幼稚園と家で触れるものがだいぶ変わると思うので、幼稚園での行動パターンでどういうものに興味があるのか気になる。」(Aさん) や、「自分が見ることができない部分の情報をこういう形でもらえるのであれば、それはステキだと思う。」(Bさん) といい、子どもが自宅以外でどんな様子なのかを知ることができれば理解が深まると考えているようだ。Dさんは「園では、どういうおもちゃが好きとか、どういう遊びをやったか、そういうのがわかるとありがたい。」といい、親や先生から以外の客観的な情報が得られることに価値があると感じているようだ。一方、「家と外で性格が違う子もいるからそれが全てではない」(Aさん) や、「外づらが良すぎて逆に心配。パターン分析をしても自分の子どもと思える結果が出てくるのかなと思う。」(Eさん) という声もあり、外で見せる態度がどの程度本心を表しているのかわからないと考えているようだった。

4 子どもの興味・関心の測定への期待と課題

インタビュー結果より、親は子どもの興味をある程度は把握できていると考えつつも、自分が知る面だけが全てではないと感じている。また自分の思いをまだ言葉で伝えられない小さな子どもや性格的に自分の思いを伝えがらない子どもの場合、なかなか興味や関心を正確に把握するのは難しいようだ。また、その時々で子どもの興味や関心も移りゆくものであることも親は理解している。

先に挙げたサービス事例は、親が認識している面だけでなく、子どもの今ある興味や関心を知る上では、有用なサービスのように考えられる。一方で、いずれのサービスも対象年齢は年中（3歳）～小学生と思われるため、年少（2歳）以下の子どもが利用するには、ハードルが高い。インタビューで仮のサービスとして挙げた「デジタル絵本から子どもの表情を読み取れるサービス」は年齢を問わず小さな子どもでも興味や関心を知るひとつの手段となり得るかもしれない。

理想の教育についても、いずれの親も子どもに様々な体験や経験をさせることで、子どもの興味や関心の幅を広げたいと考えており、身の回りの事だけではなく、広く世界を知ってそこから子ども自身の興味を通じて知識・スキルを身に付けられるようにしたいと考えている。また、その子どもの興味や関心に適した学習方法や声かけをしたいと感じている。これらのことから、「『私の可能性 発見!』診断」のように、子どもの興味や関心を測定し、その分析結果から子どもに合った習い事の提案や、声かけのアドバイス、学びの方法を提示することは有用かもしれない。

インタビュー結果より、親の知る面以外の子どもの興味や関心を知るための手段として、デジタル絵本を読んでいる表情や幼稚園・保育園に設置されているカメラの映像から子どもの興味や性格などを推定できる仕組みはある程度は有効と思われるようだ。実際、保育業務における事務業務のDX化に取り組んでいる株式会社ユニファは、画像解析により子どもの発達状況や今何に集中しているのか、興味があるのかを分析しようとしている¹。

【コラム：保育の現場にもニーズあり！】

2023年6月1日、政府は少子化対策として、親が就労していなくても保育を利用できる「こども誰でも通園制度（仮称）」の創設を発表した²。これに対し現役保育士の先生は「働く保護者のみを対象にするのではなく、さまざまな環境の家庭の子どもを預かれるようにするという制度自体はよいものだと思います。一方、子どもを受け入れる側の保育所の体制が整っているのかというと全く整ってないといっても過言ではありません。まず、保育士の人手が不足しています。保育現場のなかでは、現状でも業務の負担が大きい中で、さらに負担が増えるのではないかという懸念や不安があります。」と述べた³。子ども一人一人に目を配り、その子の興味が何かを観察し保育に生かすことが、保育士の役割の中でも重要なもののひとつだと考えるが、ICTを活用して子どもの興味や関心を把握し、その子に合った声かけや保育・学びを促したり、親とのコミュニケーションができたりすれば、忙しい保育現場の支援にも繋がるかもしれない。

¹ グッドデザイン賞 2021グッドフォーカス賞 [新ビジネスデザイン] スマート保育園®
<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9e60d41e-803d-11ed-af7e-0242ac130002>

² 「こども未来戦略方針」
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_mirai/dai5/siryoku1.pdf

³ NHK首都圏ナビ「課題山積の保育現場～現役保育士の先生「現場の声を聞いて」」
<https://www.nhk.or.jp/shutoken/wr/20230619a.html>

子どもの興味・関心を把握することを難しいと考えている親にとって、今回取り上げたようなサービスを活用して子どもの興味や関心を把握することは、子どもを深く理解する手助けとなり得る。また、その分析結果から、声かけのアドバイスや学びの方法の提案をすることで、子どもとの時間をより良いものにできる可能性がある。これまで子どもを見守る人が観察し感じとっていた子どもの興味や関心を、データとして定量的に把握できれば、子どもの新たな面を知るきっかけとなるかもしれない。一方で、子どもの興味や関心はその時々に移るものであり、また自宅と外では態度が変わる子もいるため、その子どもの本心を知ることは容易でない。それでもこれまで気づかなかった子どもの興味や関心にひとつでも気づくことができれば、今より子どもをより深く知ることができ、親子の時間をより充実したものにできる可能性が十分にあると考えられる。

【執筆者プロフィール】

氏 名： 畑中 梨沙

所 属： KDDI総合研究所 atelierデザイン部門 atelier企画室

経 歴： KDDI総研（現KDDI総合研究所）入社後、総務企画部門、フューチャーデザイン部門等を経て、atelier企画室にて調査レポートの編集発行やKDDI research atelierの情報発信業務に従事。専門分野は、「暮らしの価値観変化」の研究。暮らしの変化や兆しを捉え、技術やデジタルと生活者とのタッチポイントの探索を続けている。